

西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 (②セ05-09-4/5)

目 的

西アジア諸国、とくに内戦・紛争によって危機にさらされているアフガニスタン及びイラクの文化遺産の調査研究や文化遺産の保護・保存修復事業を通して、技術移転及び人材育成を図り、自国民の手による文化財保護事業の確立の支援を目指す。また、あわせて周辺地域（特に中央アジア、インド）の文化遺産の調査研究・保護への協力を実施する。

成 果

1. アフガニスタン（バーミヤーン）

ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による「バーミヤーン遺跡の保護」事業と連携し、バーミヤーン遺跡の保存修復事業を実施するとともに、日本国内にてアフガニスタン人専門家の人材育成事業を行った。

1-1. バーミヤーン遺跡の保存修復事業

第9次ミッション（6月26日～7月9日）をバーミヤーンへ派遣し、これまでに保存修復を行った石窟壁画の状態調査や壁画片や考古遺物の保管庫への移送などを行った。

1-2. アフガニスタン文化財専門家研修事業

カブール考古学研究所より研究員を2名（ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による招聘者1名）を招聘し、7月22日から12月11日にかけて、東京文化財研究所、静岡県埋蔵文化財調査研究所（8月17日～9月4日）、奈良文化財研究所（9月24日～11月27日）において、考古学調査の技術研修を実施した。

1-3. バーミヤーン遺跡保存のための専門家会議への出席

2010（平成22）年3月25、26日、ドイツのミュンヘンで開催された第8回「Expert Coordination Meeting for the Preservation of the Bamiyan Site」に出席（山内和也、前田耕作）。

1-4. 『アフガニスタン文化遺産調査資料集』の出版

アフガニスタン文化遺産調査資料集概報第5巻英語版『Preliminary Report on the Conservation of the Bamiyan Birch Bark Buddhist Manuscripts』、アフガニスタン文化遺産調査資料集第4巻『バーミヤーン遺跡の地下探査』。

1-5. 外部機関・団体との共同研究等

(1)森林総合研究所「カバノキ樹木樹皮（樺樹皮）文書の製作技法と材料の化学特性の解明」；森林総合研究所と共同で、バーミヤーン出土樹皮仏典や各地の樺樹皮を試料とし、樺樹皮の化学特性と製作技法に関する研究を行った。(2)同志社大学「インド・アジャンター遺跡の保存に向けたデジタルドキュメンテーションに関する研究」；石窟のデジタル測量を行い、学術調査および今後の保存修復や遺跡の保存管理に必要な現状図面作成を含む、デジタルドキュメンテーションに関する研究を行った。(3)凸版印刷「インド・アジャンター遺跡 第2窟壁画の色再現」；凸版印刷と共同で、現状の色彩の保存状態を記録するために、アジャンター壁画の彩色の分光特性を記録し、色情報の再現を試みた。(4)名古屋大学「ユーラシア大陸における文化遺産資料の自然科学的手法による年代学的研究」；名古屋大学への委託事業を通して、バーミヤーン遺跡などアジア各地の遺跡の出土遺物を対象に高精度の放射性炭素年代測定を実施し、考古・美術史研究の知見と総合して、遺跡の年代学的研究を行った。

2. イラク

イラク人専門家を育成し、イラク人による文化財復興を支援する。本事業は、ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による「バグダードにあるイラク国立博物館の保存修復室復興事業」と連携して実施した。

2-1. イラク文化財専門家研修事業

②国際協力・交流等 Area13

イラク国立博物館より4名（ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による招聘者2名）の保存修復家を招聘し、6月16日から9月19日にかけて「染織品の保存修復研修」および「文化財の保存修復および分析調査のために使われる機器に関する研修」を実施した。

3. 西アジア周辺諸国における文化遺産の調査研究・保護への協力等

3-1. トルコ

カッパドキア石窟壁画の状態調査；4月10日から18日にかけて、カッパドキアに点在する石窟と内部に残された壁画の状態調査および現地専門家との意見交換を行った。

3-2. シリア

デデリエ洞窟の遺構の保存修復のための状態調査；8月14日から22日にかけて、同遺跡出土の住居遺構を現地で保存するために、洞窟内環境の測定や保存修復方法の検討などを行った。

3-3. タジキスタン

タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画片の保存修復及び文化財専門家の人材育成・技術移転；文化庁委託事業である文化遺産国際協力拠点交流事業と連携し、壁画片の保存修復を行うとともに、中央アジア関係諸国より専門家を招聘し、意見・技術交換を目的としたワークショップを開催した。また、報告書『タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復 2008年度（第1次～4次ミッション）』を刊行した。

3-4. インド

(1)アジャンター壁画の保存修復；文化庁委託事業である文化遺産国際協力拠点交流事業と連携して、インドのアジャンター仏教壁画の保存修復活動を実施した。壁画の保存状態記録を目的とした高精細写真撮影、自然科学的調査に基づく試験的なクリーニングなどを行った。また、『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業—2008年度（第1次ミッション）—』を刊行した。(2)アジャンター遺跡の保存修復にむけた専門家会議；文化庁委託事業「東京文化財研究所とインド考古局との壁画保存に関する拠点交流事業」および「文化庁外国人芸術家・文化財専門家招聘事業」と連携し、インド考古局の保存修復専門家を2名招聘し、2009（平成21）年8月5日に専門家会議を開催した。

3-5. 中央アジア諸国

中央アジア諸国の文化遺産のドキュメンテーション；ユネスコ文化遺産保存日本信託基金と連携して、中央アジア5カ国において、関係当局と事業開始のための事前打合せを行った（2010年1月7～22日、2月14～19日）。

3-6. エジプト

JICA事業「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」への協力。

4. 国際会議等への参加

4-1. 「The 5th UNESCO Sub-regional Workshop on the Serial World Heritage Nomination of the Silk Roads」（2009年5月18～14日、於アルマティ、カザフスタン、出席者：山内和也）

4-2. 「1st Meeting of the Coordinating Committee on the Serial World Heritage Nomination of the Silk Roads」（2009年11月3～6日、於西安、中国、出席者：山内和也、有村誠）

研究組織

○清水真一、山内和也、朽津信明、宇野朋子、有村誠、影山悦子、島津美子、邊牟木尚美、鈴木環、安倍雅史、廣野幸（以上、文化遺産国際協力センター）、前田耕作、岩井俊平、西山伸一、谷口陽子、松岡秋子、古田嶋智子、末森薫、野島崇子、高林弘実（以上、客員研究員）、肥塚隆保、杉山洋、森本晋、石村智、脇谷草一郎、田村朋美（以上、奈良文化財研究所）、中村俊夫（名古屋大学）、大原誠資、加藤厚（以上、森林総合研究所）、三橋徹（凸版印刷）、津村宏臣（同志社大学、客員研究員）